

「多様性を認め合う社会」 5月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

今年2月の新聞に、ある国会議員が特定外国人に対して「日本人の国なので、日本の文化・しきたりを理解出来ない人は母国にお帰り下さい」とXに書き込んでいたという記事が掲載されていました。以前、外国人が日本および日本人に対して物申すというテレビ番組の中で、外国人の意見に対して出演していた日本人の子どもが「そんなに文句を言うのだったら、自分の国に帰ったらいいと思います」と言っていた言葉が頭をよぎりました。子どもと大人の年齢的な違いはありますが、どちらも相手を日本から排除しようとする点で一致しています。

平成28年、人種、民族、国籍などの属性を理由として地域社会から排除することを扇動するようなどんな差別的発言を解消するこ

とを目的に「ヘイトスピーチ（憎悪表現）解消推進法」が施行されて8年。特定民族であることを理由に「国へ帰りなさい」「日本から出て行って」などの言葉を投げかけるのは、典型的なヘイトスピーチにあたります。

私たちは、自分と同じような考えを持つ人に対しては優しくし、そうでない人になると冷たい態度で接し、自分の周りから外そうとすることがあります。外すまではいなくても、相手の話は聞かず自分の言い分を押し通そうとしたり、感情的になったり。これらに共通するのは、自分の意見を主張することに躍起になり、相手の気持ちや立場を考慮しなくなることです。そこには「相手も自分と同じ人間」という捉え方はなく、否定的な感情とともに相手の人格や尊厳は捨て去られてしまっています。

そんな社会は、きっと住みづらい社会ではないでしょうか。

「みんなちがってみんないい」、それを認める社会が、人権が尊重され、暮らしやすい社会につながるのだと思います。

